

新刊紹介

動態經濟の研究

名古屋高等商業學校教授

商學士 高嶋佐一郎氏著

本書は「認識對象または研究方法に於ける差異より眺めて、靜態經濟と看做さるべき分野を耕せる好著述の尠なからざるに反し、その動態經濟に關說せられたる述作に至りては極めて寥々たる觀がある。然るにも拘らず、今日の經濟生活の需要してゐる認識要求的方向は、寧ろ却りて此の動態經濟の理論的展開の方に横はり居るものゝ如くに見受けられる」(著者序文の一)(節以下同じ)世の趨向に應ずるものである、謂ふ所の動態經濟とは「内容的には此の現代流通經濟生活中の或る斷層と段階とに必然的に現はれる動的生活現象を主對象とし、方法的には能ふ限り實證的研究と理論的研究

とを併用して考察せらる可きところの局面を指すのであり」思想的に言へば、この方向への先驅は一九一二年後のクラアク及びビシュムベタアの想跡に尋ねらる可き」であり、「其後十數年間に發現せる世界無前の動的經濟生活の體驗によりて豊富ならしめられ、此れが認識もまた有力なる研究者を得て著しく豐潤明晰となり、其の特殊的研究として更にシュビートホッフ、カツセル、レーデラア、ミツチエル、ケインズ、レエツエ、レブケ、モムベルト等の業績、一般的研究としてはカツセル、アモン、リイフマン、ビグウ、ブツデエ等」の論考を舉示して以て其の方面其の地位を彷彿し得可きものを著者は指して居るのであつて、要するに近代經濟生活の動態的方面を實證的に理解考察せんことが本書の目的とせる所であり、此の意味に於て本書はわが讀書界實際界に提供せられざる可からざる大なる理由を有するものであることは申す迄もないことである。本書の收むる所は凡て十

二篇であつて、其の第九篇「リイフマンに於ける景氣理論と景氣政策」を除くの外は何れも最近數年間に於て「國民經濟雜誌」「商業經濟論叢」「社會科學」等の専門雜誌上に發表せられたるものであるが、今回大に補訂を加へ系統組織を立てられたものである、今其の篇名を列記すれば、

第一篇 景氣循環理論の研究

第二篇 景氣政策の一斑

第三篇 唯物史觀の發展史一斑

第四篇 マルクス唯物史觀の修訂の歸趣

第五篇 アルフレッド・マーシャルの風格
と思想

第六篇 經濟理論と經濟理想とのマーシ
ヤルの貢獻

第七篇 國稅體系と地方稅體系とに於ける
發展と歸趣

第八篇 動態理論を強調せる「貨幣經濟の
研究」の研究

第九篇 リイフマンに於ける景氣理論と景

氣政策

更に附録として

一、金融論の一節——銀行業に於ける分業
主義と兼營主義

二、名古屋とボストン——文化批判より文
化創造へ

三、名古屋とリオン——企業分散より企業
集中へ

の三篇があり、要するに教授の獨特なる文章
を以て其の該博なる知識を織り出されたる此
の方面の最も新らしき學問的藝術品であつ
て、我學界を裨益する所大なると同時に、實
際家にとりても一大好指針であらうと思はれ
る、吾人は此の好著を廣く江湖に獎むるに躊
躇せざるものである。(田崎生)